

『繋がる一步』世界のことばと遊びの広場感想より

—世界に通じる力を育てる—第 96 号

メルマガご愛読の皆様、こんにちは。

NPO 法人多言語広場(ピアザ)CELULAS の尾本です。(以下セルラスと表記します)

「最近、セルラスからのメルマガ多いな～」と感じているそこのアナタ。

その通りです！

「定期号」とは別に「特別号」としていつもより 2 回多く、配信させていただいております。

11 月 3 日(日)に関西でセルラスとしては約 10 年ぶりに「世界のことばと遊びの広場」(以下「セカヒロ」と表記します)という国際理解授業イベントを行いました。

当日は、多くの方が来場していただき、大変盛り上がりしました。

12 月 7 日(土)は関東でセカヒロが開催されます。

本日は、今週末のイベントに先駆けて、少しでも早く皆様にこの雰囲気を感じていただきたく、関西でイベントスタッフをしてくれたメンバーからの感想をお届けいたします。

これを読んで、さらにワクワクした気分で来場された皆さんとお会いできるのを楽しみにしています。

『入会 7 年目の好奇心』

大阪在住 城口さん

家族構成：夫・息子(中 3)

「どうやら今年に関西セルラス初の試みとなる一般公開イベントをするらしい」

という話を耳にして迎えた 4 月のセルラス全体会。

「自分たちの活動で見えてきたものを外に向けて発信する時期」という理事長のことばに、好奇心が刺激されたセルラス入会 7 年目の日。

今まで事あるごとにセルラス青少年たちの成長を見てきた私は、

「この力をメンバー以外の方にも知ってもらいたい！」

「イベントに遊びに来てくれた人たちにも、私たちがセルラスで感じる好奇心や達成感を味わってもらいたい！」
というような「～したい」気持ちがいっぱいになり、私はそのイベントのプロジェクトスタッフ(以下 PS と表記)(※ 1)に立候補しました。

【焦りと不安の中での準備】

ところが、会場と日程が決まったのはなんと本番まで 2 カ月を切った頃。

正直、その時は好奇心のワクワクより、「本当にできるのかな？」という不安のドキドキがはるかに上回っていました。

不安から解放されたい一心で、ミーティングや PS ラインでは積極的に意見を出すように心がけました。

「しつこいかなあ…」と思う場面でも、お互いの意見を受け止め、そしてそれを広げていくセルラスメンバーの姿勢のおかげで、少しずつイベントへのイメージが具体的な形になってゆきました。

私はインドネシアブースを担当しました。

インドネシアからの留学生 2 人は、セルラスのイベントボランティア募集のチラシを見て申し込んできてくれた方たちで、もちろんセルラスへの参加は初めて。

しかも普段日本語をあまり使う必要性が無いため、日本語でのコミュニケーションは取れず、会話やラインはすべて英語で行いました。

大学での勉強が忙しい中でも、彼女たちは打ち合わせに積極的に参加し、アイデアを寄せてくれました。

彼女たちとの必然的な英語でのコミュニケーションは、普段英語をあまり使う必要性が無い私にとって、とても貴重な体験でした。

【イベント当日目にしたものは…】

各々が自分の出来ることとにかく取り組み、いよいよ当日。

会場には多くの人が集まりました。

各国のことばで「こんにちは」「ありがとう」「がんばれ！」と書いたシールを、入口で配られた旗に熱心に貼りつけている人たち。

インスタ映えコーナーで写真を撮る人たち。

ファッションショーで各国の民族衣装を着て、はにかみながらランウェイを歩いてポーズをとる人たち。

そして、それを見ている人たち。どの人も笑顔でした。

ブースタイムでは関西在住のいろいろな国の方たちが、自国の歌やダンス、楽器演奏、文字やあいさつなどの文化紹介を行いました。

そしてブースに遊びに来てくれた方たちには、体験したことを発表するステージタイムもありました。

インドネシアブースはクイズを出したり、ヒジャブ（※2）を巻いたり、“アングルン”（※3）という民族楽器を演奏したりしました。

ブース内の彼女たちは常に笑顔で臨機応変に対応してくれていて、とても感心しました。

ステージタイムではアングルンで「きらきら星」を演奏しました。

練習でうまく音を出すことができなかつた子もいましたが、留学生2人も一緒にもやってくれたので、発表は大成功。

イベント終了後、1人の留学生が「日本語を話せたらもっと楽しかったのに！」と言ってくれました。

普段日本語を必要としない子たちが、私たちとの交流でそんな風に思ってくれるようになったことがとても嬉しかったです。

【セルラスの底力と今後の課題】

直前に予想外のことはいろいろ起きましたが、大盛況の中、イベントは終了。

来た方は楽しかったかしら？子供たちは何か面白いこと見つけたかしら？いろんな国の人と仲良くなれたかしら？今は「～かしら？」がいっぱいです。

正直、私が最初思い描いていたものとはちょっと違ったかな？と思いますが、新しいことに取り組む時に、少し背伸びをしてでも、一歩先を目指す気持を持たたことは自分にとっての収穫でした。

また、準備から本番までの、アイデアを出し、どんどん形にしていくセルラスメンバーの行動力に圧倒されました。

ただしこれは「火事場のセルラス力」みたいなもので、計画性などの課題も見え、自分たちの今後を考えるきっかけになったと思います。経験を次に繋げるのは自分自身、私の好奇心も次に繋がりますように。

※1) プロジェクトスタッフ：セルラスの各イベントと一緒に創っていくメンバー。イベントごとに立候補した人が担うことができる。

※2) ヒジャブ：女性のイスラム教徒が被る頭を覆うもの。主に布でできている。

※3) アングルン：竹で作られたインドネシアの楽器。1音ごとに楽器が分かれているため、曲を演奏するのは意外と難しい。